

高速道路建設促進に関する要望書

全国高速自動車道市議会協議会は、平成22年度高速道路建設促進に関する要望書を決定いたしましたので、政府並びに国会におかれましては、特段のご配慮を賜りますよう強く要望いたします。

平成21年11月10日

全国高速自動車道市議会協議会
会 長 仲 道 俊 寿
(大分市議会議長)

要 望

高速自動車国道は、地域の交流や観光に加え、広域救急医療及び災害時の緊急輸送などに資する極めて重要な社会基盤であるとともに、物流の迅速化によって地域の経済活性化へ大きな効果が見込め、地域間の格差是正のためにも、その一日も早い整備完了が待たれる。

しかしながら、高規格幹線道路網 14,000km の供用率は依然として 6 割台に過ぎず、現下の経済情勢及び公共事業政策を取り巻く状況と相まって、地方圏における高速道路建設の更なる遅れが懸念される。

高速道路はミッシングリンク（未開通区間）が解消されてこそ、その効果を最大限に発揮するものである。既存の高速道路の有効的な活用を促すためにも、高速道路ネットワークの早期整備を図るとともに、高速道路へのアクセス性を高める地域の高規格道路の整備を急ぐことが喫緊の課題となっており、これらに必要十分な道路整備財源を確保することが重要である。

よって、国におかれては、高速道路ネットワークの早期完成が図られるよう、次の事項の実現を強く要望する。

1. 高速道路の建設促進について

(1) 高速自動車国道の整備計画区間 9,428km を中心にした高規格幹線道路網 14,000km の整備は、国の責任において着実に実施し、連続した高速道路ネットワークを早期に実現すること。

また、高速道路と一体となって道路交通体系を成す地域高規格道路の整備を促進するため、候補路線の計画路線への指定と着工を早期に実現すること。

(2) 本年度補正予算の見直しによって、執行停止とされた6区間の4車線化事業については、明年度以降において着実に実施すること。

(3) 高速道路建設の具体化に当たっては、ミッシングリンクを抱える地方の実情・ニーズを十分に把握するとともに、その整備促進に必要な財源を優先配分すること。

(4) 道路の評価手法については、三便益（走行時間短縮、走行費用減少、交通事故減少）の費用対効果だけでなく、災害時や救急医療活動の観点から「命の道」としての評価を加えた総合的な判断を行うことが可能な手法に見直すこと。

2. 高速道路の無料化について

高速道路の通行無料化については、受益者負担の原則を逸脱することはもとより、交通渋滞や環境への負荷及び公共交通体系全体への悪影響が懸念されるので、その

検討に当たっては慎重に対応すること。

3. 高速道路の利便性の向上について

スマートインターチェンジの整備等を促進するとともに、その設置に当たっては、取付道路等周辺交通の整備にも十分配慮すること。

4. 交通渋滞・防災・安全対策等の推進について

(1) 高速道路の交通渋滞解消のため、最先端の情報通信技術を用いたITS（高度道路交通システム）の構築を推進すること。

(2) 集中豪雨、地震等に対する防災に優れた道路構造の開発や道路擁壁の整備など防災対策を推進すること。

(3) 高速道路利用による地域の救急救命活動の支援を図るため、救急車退出路並びに緊急進入路の整備を推進すること。

(4) 高速道路の事故防止対策として、暫定2車線区間の中央帯レーンマークの改良など交通安全対策に万全の措置を講じること。

5. 自動車関係諸税の暫定税率について

地方における道路整備を促進するうえで、貴重な財源となっている自動車関係諸税の暫定税率を維持すること。